

< 論文（教科教育法） >

社会科教育法における歴史教育

山 岡 昭 吉

要旨

中学校学習指導要領・「社会」の歴史的分野の内容（「近現代の日本と世界」）において、「キ第二次世界大戦後」があり、「国際社会に復帰するまでの我が国の民主化と再建の過程や国際社会への参加について、世界の動きと関連させて理解させる」とある。また、「ク高度経済成長以降」があり、「我が国の動きを世界の動きと関連させてとらえさせ、経済や科学技術の急速な発展とそれに伴う国民の生活の向上や国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことについて気付かせる」とある。

近現代の日本と世界について考えさせるための学習内容は、最後の項目のため、授業時間配分の都合から、簡単に触れる程度に扱われることが多く見られるようである。また、地域社会との関連で、生徒のグループによる調査研究を媒介にして、授業が行われるようである。教科書においても、その傾向が見られる。ここでは、生徒自身が主体的に積極的に取り組めるような教材を作成し、身近に歴史を、時の流れを実感でき学べる、学習指導で活用できる教材を提示することを主眼においた。

キーワード

中学社会科、歴史的分野、年表、教材開発、家族史、現代史

はじめに

生徒自身が主体的に積極的に取り組めるような教材とは、ここでは、自分のこととして歴史を考えることを意味している。身近に歴史を、とは、文字通り身近な存在である家族の視点でとらえている。そして、時の流れを実感でき学

べる、とは、これまで体験し実感している生徒自身の歴史の視点で考えている。

近年、家族意識が希薄になっていく傾向が認められる。そのため、歴史学習を深めていくとともに、身近な存在である家族を考え、そして家族とともに育ってきた生徒自身の存在を自覚することも意図して教材を考えた。生徒自らの外界としての歴史だけを学ぶのではなく、自らの内にある歴史をも見つめていくことを期待した。

身近な存在である家族を考え、そして家族とともに育ってきた生徒自身の存在をも自覚することを意図した。このため、家族との交流・会話を通して学べるものに教材を設計した。家族とともに、現代史の年表をつくることによって、現代日本の歴史を家族の歴史とともに学んでいくことを考えた結果、家族とつくる現代史年表の教材を開発した。

ここでは、開発した教材である家族史年表と、家族史年表の作成を中心とした指導計画について検討したい。

1 家族史年表

生徒と保護者・親がつくる現代史年表のことをここでは、「家族史年表・本史」と呼び、生徒と保護者・親・祖父母等とつくる現代史年表のことを「家族史年表・前史」と呼ぶことにする。

1-1 二つの家族史年表・・・「家族史年表・本史」と「家族史年表・前史」

中学校学習指導要領・「社会」の歴史的分野の内容（「近現代の日本と世界」）において、「ク高度経済成長以降、我が国の動きを世界の動きと関連させてとらえさせ、経済や科学技術の急速な発展とそれに伴う国民の生活の向上や国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことについて気付かせる」とあり、その「内容の取り扱い」においては、「節目となる歴史的事象を取り上げて扱うようにすること」とある。この文章に該当するのは、年代的に考えれば、生徒と保護者・親がつくる「家族史年表・本史」である。

同様に、中学校学習指導要領・「社会」の歴史的分野の内容（「近現代の日本と世界」）において、「キ第二次世界大戦後」があり、「国際社会に復帰するまで

の我が国の民主化と再建の過程や国際社会への参加について、世界の動きと関連させて理解させる」とある。この文章に該当するのは、生徒と保護者・親・祖父母等とつくる「家族史年表・前史」である。

生徒を主体に考えるため、生徒と年代的に対応する「家族史年表・本史」を先に課題として与え、次に「家族史年表・前史」を与える。指導計画において、双方ともほぼ同様なものになるため、ここでは、「家族史年表・本史」の指導計画のみを提示している。また、生徒個々の保護者・親の年代には、当然のことながら幅がある。ここの「家族史年表・本史」の年代は、一つの目安として扱われることを意図している。家族の構成員の年代の幅によっては、「家族史年表・本史」と同時に「家族史年表・前史」がつくられる場合があることも考えられる。

時系列的に生徒の年代から前の年代に遡ることは抵抗があることも想定される。しかし、課題として与えられ、生徒が着手した時期よりもかなり後で、学習の総括段階において授業で扱うことを考えれば、抵抗感も低減されるであろう。逆に、復習としての確認を行うとすれば、遡る方法も一つの方法として認められるであろう。

1-2 家族史年表作成を通した学習指導の目標

- 1) 歴史の学習を生徒が自らの生き方とかかわらせて考えられるようにする。
- 2) 生きて居る事実とその背景と歴史を理解させる
- 3) 現代史のダイナミズムを身近な家族の生活努力と自分史を通して実感させる。
- 4) 歴史の流れの中にいる自分を自覚させ、歴史を学ぶことの意義・意味について理解させる。
- 5) 調べ、学び、確かめ、話し合うことを通して、家族間のコミュニケーションを図る。
- 6) 家族それぞれが、家族生活を維持するために努力してきたことを実感できるようにする。
- 7) 生徒自身が物心つく、自意識が確立する以前のことを家族から聞き、家族に育てられてきた事実を実感させ、理解させる。

家族史年表・本史（生徒と保護者・親等）

世界	日本	地域社会・世相	年表	生徒 (兄弟・保護者・親等)	家族 (兄弟・保護者・親・祖父母等)	備考・補足
国連軍縮特別総会			1978年/S53年			
米中国交正常化		歌「蘭白宣言」	1979年/S54年			ソ連アフガン侵攻
第二次石油危機		「リゲイン」	1980年/S55年			イランイラク戦争（～88）
米EC貿易摩擦激化			1981年/S56年			
			1982年/S57年			
			1983年/S58年			
			1984年/S59年			
			1985年/S60年			
ソ連ベレストロイカ	筑波科学万博		1986年/S61年			
	民族政策強化		1987年/S62年			
貿易黒字世界一に			1988年/S63年			
中国天安門事件	消費税導入	「ハイランダー」	1989年/H元年			日米構造協議
東西ドイツ統一	バブル経済崩壊		1990年/H 2年			日本人宇宙飛行
湾岸戦争、ソ連解体			1991年/H 3年			
「地球サミット」	PKO協力法成立		1992年/H 4年			ユーゴ連邦解体
EU発足			1993年/H 5年			
	世界文化遺産登録		1994年/H 6年	1才		
	阪神大震災	地下鉄サリン事件	1995年/H 7年	2才		
			1996年/H 8年	3才		
香港中国返還	地球温暖化防止京都会議		1997年/H 9年	4才		
			1998年/H10年	5才		
世界人口60億人突破	東海中継管事故		1999年/H11年	6才		
			2000年/H12年	7才・小学1年		
同時多発テロ	テロ対策特別法・案成立		2001年/H13年	8才・小学2年		アフガン戦争
日韓首脳会談	拉致被害者帰国	日韓共催ワールドカップ	2002年/H14年	9才・小学3年		
イラク戦争			2003年/H15年	10才・小学4年		
自衛隊イラク・イหรに	中越地震		2004年/H16年	12才・小学6年		スマトラ沖大地震
			2005年/H17年	13才・中学1年		
			2006年/H18年	14才・中学2年		
			2007年/H19年			

家族史年表・前史（生徒と保護者・親と祖父母等）

世界	日本	地域社会・世相	年表	保護者・親・兄弟等	家族 祖父母等	備考・補足
ソ連戦・ドイツ降伏 アジア諸国独立続く	原爆投下・敗戦・期間団体 憲法公布・農地改革 63学体制制・教育基本法	女性参政権・「リンゴの歌」 農地改革 ヤミ市・学校給食	1945年/S20年 1946年/S21年 1947年/S22年 1948年/S23年			男女共学
1ドル360円 朝鮮戦争（～53）	警察予備隊創設	湯川ノーベル賞	1949年/S24年 1950年/S25年			
サンフランシスコ条約	日米安全保障条約	民放開始 「リンゴ追分」	1951年/S26年 1952年/S27年			
		TV放送開始	1953年/S28年			
第五福竜丸被曝	自衛隊発足		1954年/S29年			
アジア・アフリカ会議	原水爆禁止世界大会	「三種の神器」白物家電	1955年/S30年			
国連加盟・日ノ国交回復	「もはや電線ではない」 高度経済成長へ		1956年/S31年 1957年/S32年			経済白書
			1958年/S33年			
		集団就職「裸は泣いちっち」	1959年/S34年			
	日米安全保障条約	カラーTV放送開始	1960年/S35年			
キューバ危機		「注釈」「ハイ痴」「上を向いて争おう」	1961年/S36年 1962年/S37年			
			1963年/S38年			
東京オリンピック		東海道新幹線	1964年/S39年			
ベトナム戦争激化			1965年/S40年			
		「君といつまでも」	1966年/S41年			
四大公害裁判（～69）			1967年/S42年			
小笠原諸島復帰	GNP世界第2位	「三百六十五歩のマーチ」[浅井トリス]	1968年/S43年			
人類月面着陸			1969年/S44年			
	大阪万博		1970年/S45年			
			1971年/S46年			
沖縄復帰・日中国交 第一石油危機	札幌オリンピック 狂乱・物価	「あなた」	1972年/S47年 1973年/S48年			ベトナム和平・第2次中東戦争
		「おかげでいやきくん」	1974年/S49年 1975年/S50年			
	ロッキード事件		1976年/S51年 1977年/S52年			

- 8) 大きな時の流れを実感させることに目的があり、年表に記載されている個々の歴史的事実の理解を得させることではないことに留意する。詳細な内容はこの課題ではなく、講義で扱われる。

1-3 「家族史年表」記入要領

1-3-1 欄内の記入方法

- 1) 「世界」の欄では、主として海外で生じた歴史的なことを記入する。
- 2) 「日本」の欄では、主に我が国全体にかかわる事柄を記入する。
- 3) 「地域社会・世相」の欄では、身近な地域社会にかかわることや、その時を象徴する出来事や流行歌・映画など、世相を表す事柄を記する。世界や日本での時代の変化を身近な地域社会・世相で感じられるような方向性のもとで記載されることが期待される。
- 4) 「生徒（兄弟・保護者・親等）」の欄では、主として生徒自身が記憶している出来事・事柄を記入する。生徒の出生以前では、兄弟、兄弟の出生前は保護者・親または相当する年齢の方が記憶している事柄を記する。
- 5) 「家族 兄弟・保護者・親・祖父母等」の欄では、主に兄弟の記憶している出来事・事柄を記入する。兄弟が物心つく前は、保護者・親や祖父母あるいは相当する年齢の方が記憶している事柄を記する。出来事でも、経済的なことや健康面の出来事などが記入されることが期待される。家族に支えられて、生徒本人の現在があることを実感し理解できるようにするためである。
- 6) 「備考・補足」の欄では、思い出す記憶にある事柄を記入する。ここでも、生徒本人にかかわることとともに家族相互に支えあってきた事柄が記載されることが望まれる。

1-3-2 記入上の留意事項

- 1) 「地域社会・世相」「生徒（兄弟・親等）」「家族 兄弟・親・祖父母等」「備考・補足」の各欄には、主として生徒本人にかかわることとともに、家族相互が支えあってきた出来事・事柄が記載されることが望まれる。経済的なことや健康面の出来事などが記入されることが期待される。また、家族が歴史

の流れの中で、お互いに支え合い、生活してきたことを実感できるように、後にあげた1-3-3記入する出来事・事柄の事例のような諸々のことを思い出し、話し合いながら記入していくことが、目標達成に効果的である。

- 2) 空欄を埋めていきながら、歴史の流れ、時の流れを実感することを意図している。
- 3) 急ぐことはないように、家族との会話を楽しみながら、思い出しながら、記入していく。
- 4) 記入する順序は無く、どこからでも記入してよいので、思い出し次第、記入していく。
- 5) 書き直しができるように、鉛筆・シャープペン書きで記入していく。
- 6) 家族史年表を拡大して複写し、数枚にして、多くの事柄を記入することは、歓迎すべきことと考える。
- 7) 当初は生徒が、現在の時点から物心がついた頃まで、欄に記入していく。次に、物心がつく以前のことを親などからていねいに聞く。この方法が妥当であるが、この方法にこだわらずに、家族とともに最初から作成していく方法も教育効果が期待できるため、認めることができる。
- 8) 記載者は、主に生徒であることが求められるが、生徒が居るところにおいて、家族あるいは親族などの方々の記入を否定するものではない。そのため、記入されている文字・書き方の統一性は要求しない。
- 9) 親と祖父母の世代の違いを示すために親と表記しているが、保護者ならびに親族あるいは近所の方でも良い。生徒の家庭において、種々の事情があることも考慮すべきと考えるからである。

1-3-3 記入する出来事・事柄の事例

「地域社会・世相」、「生徒 兄弟・保護者・親等」、「家族 兄弟・保護者・親・祖父母等」、「備考・補足」などの欄に記入する出来事・事柄の事例を下にあげてみたい。時の流れ・歴史を実感させることに誘導できるものをあげた。

下記のいくつかの事例を基軸にして、各年あるいはその時々になにがあったの

か、どう変わったのかなどを聞き、考え、話し合、記入することが望まれる

中学校学習指導要領、「社会」の歴史的分野の、2 内容（「(1)歴史の流れと地域の歴史」）に記述されているように、「ア我が国の歴史について、関心ある主題を設定しまとめる作業的な活動を通して、時代の移り変わりに気付かせるとともに、歴史を学ぶ意欲を高める」こと、そして「イ身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解させるとともに、歴史の学び方を身に付けさせる」ことを意図している。

また、中学校学習指導要領、「社会」の歴史的分野の、3 内容の取り扱い（(2)内容の(1)については、次のとおり扱うものとする）の「イ イについては、内容の(2)以下とかかわらせて計画的に実施し、地域の特性に応じた時代を取り上げるようにするとともに、人々の生活や生活に根ざした文化に着目した取扱いを工夫する」方向で、下記の事例を提示した。

イベント（催し物）、スポーツイベント、祭事、記念行事、余暇レジャー、旅行、映画、流行歌、スター、病気、入院、物価、店舗、建物、街の様子、ニュース、大きな出費をした出来事、試合、試験、表彰、出会い、人、贈り物、人、失せ物、慶弔、科学技術、自然環境

1-4 家族史年表の扱い方

- 1) 課題として生徒に提示する。
- 2) 年表を生徒に渡し、提出させる間の期間は、最低でも3週間はかける。
数回に分けて提出させることも、教育効果が期待できる。
- 3) 生徒に課題を与える時期は、冬休み期間前が望ましい。

その期間には正月がある。生徒の家族のみならず、親族も集まる可能性があり、身近な多くの方々のお話を聞く良い機会でもあり、話も広がる可能性が大きい。家族史年表の作成が、一家族のみならず親族の出来事への再認識を促すとともに、これまでの生活努力に対する励みになることが期待される。

- 4) 3学期に行われる現代史の授業内容の予習的な課題として位置づける。

授業で活用するのは、現代史の最終的な総括の時間で行うことが望ましい。
課題として与えた後、授業の進行にともなって再度、提出させることも、
学習を深める上で効果が得やすいであろう。

2 指導計画

教科書である、大濱徹也他『中学生の社会科 日本の歩みと世界 歴史』日本文教出版 2007年 の、第7章 現代の世界と日本（1 日本の再出発、2 二つの世界と日本の独立、3 わたしたちと現代）に依拠して、指導計画を立案した。

2-1 単元のねらい

戦後の改革がどのように進められ、国民はどのように受けとめたのか。また、現代の世界情勢や国民生活がどのように変化してきたのか、かかえている課題は何なのか、を理解させる。

2-2 単元の展開・・・第7章 現代の世界と日本

1 日本の再出発（2時間）

連合国軍による占領政策から日本国憲法の制定を経て、戦後の国民生活までの政治的な流れを概観する。

2 二つの世界と日本の独立（2時間）

二つの世界から日本の独立、そして平和の願いへの政治的な流れを概観する。

3 わたしたちと現代（2時間）

政治で見る現代では、複雑化する世界情勢キューバ危機からテロの破壊活動までの政治的な流れを概観する。経済で見る現代では、高度経済成長政策から四大公害裁判までの経済的な流れを概観する。社会で見る現代では、コンピュータからインターネットの情報社会までの社会的な流れを概観する。

2-4 本時の指導計画（「家族史年表・本史」）

	学習活動・学習内容	指導上の留意点	資料・準備
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の意味・意義を説明する。 ・課題である家族史年表の記載の仕方を再度説明し、確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史・時の流れを実感すること、家族の支え合いなどを考えることを目的としていることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に模造紙に書いた家族史年表を掲示して示す。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・課題である家族史年表の扱い方を、個人情報保護法と関連させて再度説明し、確認する。 ・グループに分かれて、準備させる。 ・今回の課題であるグループ別家族史年表の記載の仕方を説明する。全項目に全員が答える必要は無いことを、前もって確認する。 ・グループ討論 グループリーダーが、追加したいと思うことをグループの生徒に聞き、グループの書記係がグループ別家族史年表に記入する。 1 「世界」「日本」欄に追加したい事柄を記入する。 2 「地域社会・世相」欄に追加したい事柄を記入する。 欄にある流行歌の内容や時代背景などを教える。 3 「生徒」欄に追加したい出来事・事柄を記入する。 家族とともに病氣と闘ったことなどを、思い出させる。 4 「家族 兄弟・保護者・親・祖父母等」に追加したい出来事・事柄を記入する。 5 「備考・補足」欄に追加したい出来事を記入する。 他の欄に該当しないと思うこと等々を、記入する 6 時の流れを感じたことを、その年の「備考・補足」欄に家族史年表の裏面に書く。 ①大変だったが乗り越えたこと。 ②うつり変わったこと。 ③その他、感じたこと。 7 家族に支えられたと思った事柄を、上記5と同様に記入する。 ・グループ討論結果の発表 グループごとにリーダーが発表する。 ・模造紙の家族史年表を見て、多かった事例を確認し、その時々の流れの中で各家族が支え合って生きてきたことの実感を再認識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族史年表の内容は、個人のプライバシーに関することもあること、その内容を流布してはいけないことなどを理解させ守らせる。 ・自発的に話してくれた内容のみ記入することを確認する。 ・グループ分けは、内容がプライバシーを含んでいるため、少人数にする。3～5人が望ましい。極力、仲良しグループにする。 ・主に歴史的大事件を記入することに留意するように指示する。 ・近所の小さな出来事や流行なども話し、思いを広げる。 ・歴史の学びに結びつく話をきくように指導する。 ・家庭の経済的な問題が入らないように注意する。 ・重要な項目なので、お互いにしっかりと聞くように指導する。 ・家族を支えたと思うことも、ここに含めていいことを伝える。 ・家族史年表が書かれている模造紙に、生徒の発言を確認しながら記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机とイスを移動させる。 ・グループ別家族史年表を配布する。 ・生徒全員の家族史年表を確認できるように、机間巡視を幾度も行う。 ・机間巡視しながら各グループの進行状況を見て、進行を促す。 ・机間巡視しながら生徒たちからの話し合いの相談にのる。 ・リーダーの発表後机とイスを元の位置に戻す。 ・多かった事例にマーカーなどで印をつける。
整 理	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒各自は、家族史年表を見直し、感想文を家族史年表の裏面に書き、提出する。 ・「家族史年表・前史」の発表は、次回、同じ様な方法で行うことを予告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早い時期に返却すること、協力してくれた家族等にお礼を言うことを、忘れずに指導する。 	

4 「第7章 現代の世界と日本」の総括（2時間）

（1）生徒と保護者・親・兄弟がつくる現代史年表（「家族史年表・本史」）

（1時間：本時）

（2）生徒と保護者・親・兄弟・祖父母等がつくる現代史年表（「家族史年表・前史」）（1時間）

2-3 本時の目標

- 1) 現代の世界情勢が、二つの世界間の冷戦から、ソ連崩壊やEU統合を経て、地域紛争とテロ破壊活動などへと変わりはじめたことを理解させる。
- 2) 経済の成長は、高度経済成長からGNP第二位の経済大国、バブル経済と後の低成長時代へと変わっていく中で、国民生活がどのような影響を受けてきたか、を理解させる。
- 3) 家族史年表を家族と作成することによって、より身近に、現代史を理解させる。
- 4) 家族史年表を家族とともに作成することによって、時代の流れの中で家族が支え合って生きてきたことを実感させる。

おわりに

近年、家族意識が希薄になっていく傾向が見られるため、歴史学習を深めていくとともに、身近な存在である家族について考え、そして家族とともに育ってきた生徒自身の存在を自覚することも意図して教材を考えた。生徒自らの外界としての歴史だけを学ぶのではなく、自らの内にある歴史をも見つめていくことを期待した。

家族とともに、現代史の年表をつくることによって、現代日本の歴史を家族の歴史とともに学んでいくことを考えた結果、家族とつくる現代史年表の教材を開発した。家族史年表と、家族史年表の作成を中心とした指導計画を示した。

現代史の内容を理解するだけでなく、その時代の流れの中で、ともに歩んできた生徒自身と家族の歴史に具体的に踏み込み、お互いが支え合ってきたこ

とを実感させることを目指した。また、この方法によって、希薄化している家族関係の絆が深まることを期待しているとともに、歴史上の個々の出来事に対する社会的認識を、生徒が主体的かつ実感的に、段階的に深めていくことも意図している。

今後の課題としては、時の流れ・歴史を実感できる記入項目軸の創出と、学習指導結果の評価・測定の方法があげられる。生徒目線から、生徒が自主的に主体的に取り組みやすい方法と教材開発に、今後とも努めていきたい。

参考文献：

- 中学校学習指導要領（平成10年12月）解説 社会編 大阪書籍
澁澤文隆他『改訂中学校学習指導要領の展開 社会科編』明治図書出版、2000年
峯岸賢太郎他『わたしたちの中学社会 歴史的分野』日本書籍新社 2007年
笹山晴生他『中学社会 歴史 未来をみつめて』教育出版 2007年
大口勇次郎他『新中学校 歴史 改訂版 日本の歴史と世界』清水書院 2007年
五味文彦他『新編 新しい社会 歴史』東京書籍 2007年
黒田日出男他『社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き 初訂版』帝国書院 2007年
大濱徹也他『中学生の社会科 日本の歩みと世界 歴史』日本文教出版 2007年
藤岡信勝他『中学社会 改訂版 新しい歴史教科書』扶養社 2007年
鈴木正幸他『中学社会 歴史的分野』大阪書籍 2007年
佐久間勝彦『社会科の授業をつくる』明治図書出版 1985年
佐久間勝彦『教師のこころの扉をひらく』教育新聞社 2006年
千葉県歴史教育者協議会編『子どもが主役になる社会科の授業』国土社 1994年
社会認識教育学会編『中学校社会科教育』学術図書出版社 1996年

（やまおか しょうきち 本学教授）